

2007 利尻山のトイレ対策について

住 吉 直 人 (利尻富士町産業建設課)

1. 利尻山の登山者数

ア 年間登山者数

平成 15 年より赤外線による入山カウンターを 6～10 月まで設置し、その他の月は登山計画書により年間の登山者数を把握した。

利尻島の年間観光客数約 20 万人のうちの約 4% が登山客であり、そのうち鴛泊コースが約 91% を占めている。



入山カウンター

(単位：人)

年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年
カウンター(6～10月)	12,936	10,971	9,488	9,534	9,671
登山計画書 (1～5月、11～12月)	305	300	257	88	94
登山者数	13,241	11,271	9,745	9,622	9,765
うち鴛泊コース	10,386	9,955	8,675	8,781	8,914
うち沓形コース	2,855	1,316	1,070	841	851

イ 月別登山者数(平成 19 年)

最も多く登山している月は 7 月(1 日平均約 119 人)であり、年間の登山者数の約 38% を占めている。

(単位：人)

年	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
登山者数(カウンター)	2,275	3,676	2,321	1,072	327
うち鴛泊コース	2,162	3,291	2,143	955	269
うち沓形コース	113	385	179	116	58

2. 携帯トイレの販売数

携帯トイレの販売価格は税込み 400 円（携帯トイレ 1 個、使用済携帯トイレケース 1 ケース）で、島内各宿泊施設、商店、コンビニエンスストア、観光案内所、キャンプ場で販売した。

また、山のトイレマナー袋（株ムッシュより 5,000 袋無償提供）を販売時に配布し、ゴミの回収についても協力を呼びかけている。

【販売箇所別販売数】（単位：個）

名称	販売数
宿泊施設	5,110
商店、コンビニ	35
観光案内所	86
キャンプ場	413
計	5,644

3. 携帯トイレの利用状況

使用済携帯トイレの回収率は平成 16、17 年と約 26% で推移していたが、平成 18 年は 48.4% と大きく上昇したが、平成 19 年は 38.3% と減少した。

理由としては、回収数が 2,164 個と平成 18 年と比較すると、232 個の減少に対し、分母である販売数が 5,644 個と、698 個の増加となったことが原因であるが、販売数が伸びながら回収数はおちているその要因について分析が必要と考えています。

しかし、販売数が伸びていることを考えると、登山客の環境保護への意識は高まっているものと思われます。

（尚、数字だけ見ると登山者の 6 割が携帯トイレを用意していることになります。）



使用済携帯トイレ回収ボックス

（単位：個）

年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年
携帯トイレ配布数（H18～販売数）	9,517	9,210	4,946	5,644
回収数	2,545	2,429	2,396	2,164
うち鴛泊コース	2,424	2,376	2,366	2,118
うち沓形コース	121	53	30	46
回収率	26.7%	26.4%	48.4%	38.3%

4. 携帯トイレブースの設置状況および経費

ア、設置状況

携帯トイレブースは平成13年に鴛泊コース8合目、沓形コース6合目の避難小屋に設置したのが始まりで、平成14年に一体型樹脂製ブース3基と、平成15年に組立式樹脂製ブース3基設置したが、雪の影響で屋根がつぶれたり、老朽化によりドアの破損が著しいことから、平成19年に環境省の直轄事業により、耐久性の低かったFRP製トイレブースから、完成度の高い木造小屋式トイレブースへと更新されました。



携帯トイレブース（避難小屋 テント製）



携帯トイレブース（9合目 一体型）



携帯トイレブース（避難小屋 組立式）



携帯トイレブース（6合目 木造小屋式）



イ、設置経費

平成13年	テント式ブース	1基	3万円×2基	6万円
平成14年	一体型FRP製ブース	1基	25万円×3基	75万円
	運搬経費(ヘリコプター)			24万円
平成15年	組立式FRP製ブース	1基	25万円×3基	75万円
平成19年	木造小屋式ブース	5基	設置 設計	130万円
			工事費	1,344万円
			(1基当たり)	295万円)

5. 携帯トイレ募金(林野庁環境整備推進協力金)

携帯トイレ募金については、平成16年から実施し、携帯トイレ配布数から見た一人当たりの募金額は平成16年で12.2円、平成17年で8.4円であった。

平成18年からは携帯トイレを有料化したこともあり、利尻山環境整備募金と名称を変え、登山道、避難小屋、携帯トイレブースの清掃活動費として協力を呼びかけている。



募金箱(登山道入口)

(単位:円)

年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
募金額(5~10月)	116,074	77,688	17,195	18,626

6. 利尻山登山道等維持管理連絡協議会

利尻町、利尻富士町ほか関係12団体によって構成されている利尻山登山道等維持管理連絡協議会では、今後の利尻山の維持管理のあり方について積極的に話し合っており、平成18年に環境省のグリーンワーカー事業を受託して登山道の足場の悪い箇所へ土のう積み階段を設置したが、効果的ではあるものの耐久性が低いことから、平成19年は小型フトン籠による維持補修を行いました。



フトン籠階段設置作業

約80mの区間に、30個のフトン籠を敷き詰め階段状にし、登山者の足場を確保するとともに、登山道の浸食を防いでいる。



進入禁止ロープ付け替え作業



フトン籠階段（設置後）

また、登山道の補助ロープや進入禁止ロープの付け替え、オーバーユースと考えられている登山客の分散を図るための旧登山道のササ刈り作業、定期的な登山道の監視活動を行っている。

利尻山の侵食、崩壊が進んでいく中で、環境省では平成18年から利尻山登山道の基本計画策定に係る調査活動を実施し、本格的に利尻山の保全対策に乗り出しました。

連絡協議会では、調査結果を踏まえ、今後も国と一体となった保全対策を行っていく予定である。